JOMA通信



Japan Overseas Missions Association

海外宣教連絡協力会 公報 No. 68号



私たちにできる世界宣教

日本のクリスチャン人口が日本の総人口に占める割合は、30年前には 1%未満だと言われていました。それが20年前になっても状況は余り変わらず、その数字はやはり1%未満だと言われていました。そして10年前はと言うと、同じように 1%を越えてはいませんでした。更にそれから10年後の現在はどうでしょうか。1%を越えたということをほとんど耳にしません。つまり30年経ってもこの数字にさしたる変化がなかったということです。

さて、このような数字を抱えながら、日本の教会 は世界宣教というビジョンに向かって世界に宣教 師を派遣し続けてきました。現在もその流れが止 まったわけではありません。そしてこれからも新たに 宣教師を派遣し、すでに派遣されている宣教師を 引き続いて支え続けていこうとしています。クリスチ ャン人口の数字だけを見ると日本の教会は宣教師 を派遣するより、外国から宣教師を招いてもっと伝 道しなければならない状態のように見えます。事実 そのような声を稀に耳にします。ある帰国中の宣教 師の巡回の時に、一人の青年が「日本の教会は外 国に宣教師を派遣するより、足元の日本の教会の 伝道のためにもっと力を入れるべきではないのか」 と真剣な顔をして質問をしていた場面に出会った ことがあります。現状だけを見ていると確かに尤も に見える質問です。

一体、世界宣教とは何でしょうか。宣教師を外国に派遣し、世界の隅々にまで福音を伝えることは確かに世界宣教の一つの形です。しかし、それだけが世界宣教のすべてではありません。 世界宣教というのは派遣された宣教師だけが行なう働きではなく、宣教師を派遣している、派遣していないに関わらずすべての教会にゆだねられた働きなのです。

また、世界宣教というのは日本の教会であれ外国の教会であれ、すべての教会が関わる使命です。



JOMA役員 山村英夫 (南米宣教会理事長)

私たちはともすると、世界宣教と海外宣教をごちゃ混ぜにして考えてしまう傾向があるのかもしれません。あるいは世界宣教イコール海外宣教として捉えてしまっているのかもしれません。イコールの面があることは事実ですが、イコールだけではありますが、世界宣教には国境はありません。

海外宣教は、日本から海を越えて全ての大陸を 宣教地として考えます。一方、世界宣教の宣教地 は日本であり日本から始って世界です。もっと現実 的に見れば、教会のお隣から始ってそれが世界の 果てまで続いていくのです。従ってこのように言うこ とができます。世界宣教というのはすべての教会が 関わっている働きであり、まず自分の教会が立地し ている場所から宣教が始っていくのです。

クリスチャン人口が、人口の1%に満たない日本 の教会にとって世界宣教はもっとも緊急の課題で す。力を入れなければならない神さまからの使命 です。自分たちの教会が都会にあろうと地方にあ ろうと、大きかろうと小さかろうと、それらの違いに はいっさい関わりなくすべての教会が等しく参加で きる働きです。教会の周りの人々に、あらゆる機会 を捉えて宣教の働きをすることから世界宣教は始 っていくのです。その結果、一人でも二人でも救い に導かれることができれば、それが世界宣教の前 進です。それはまた、その教会の成長につながる ことであり、その成長がやがては世界の果てにまで 福音を伝えたいというビジョンにつながっていくの です。クリスチャン人口が、国の人口の1%に満た ない日本の教会が世界宣教の働きに参加するた めに、地道に日常の活動に励んでいきたいものです。

JOMA次年度計画に向けての提案

JOMAは、設立後40年を経過しました。創設者たちの熱意ある働きが、受け継がれていく中で時代も変化し、新たに機能的なバージョンアップも必要になってきているものと思われます。ことに、JOMAの専門集団としての機能性を高めるためには、いかに、洗練された諸団体のノウハウを共有するか、また活用しやすい環境を整え、諸団体・個人の働きを強めていくか、さらには、新たに参入し、これから学びながら大きく働きを展開しようとしている諸団体・個人がより効率的に日本から派遣され、持続可能な働きを支援していけるかを意識していくことが大切です。

こうした諸課題に適切に応じていくために、JOMA の体制を再構築する必要があります。現体制では、 JOMA関連の事務運営をこなしていくことはできても、 内実のある活動を展開していくのは難しいというのは 皆さんもよく理解されることと思います。そこで、パー ト主事を公募しておりますが、なかなか適人が見つ からない状況にあります。昨年度は、多方面で種々 の重責を担う輪番制の役員たちが方針策定の働き に専念できるように役員が実務を担うことのないよう に、実務をアウトソーシング化する切り分けまで行い ました。実務を統括するパート主事を早急に得たい ところですが、しばらく難航することが予測されます ので、アウトソーシング化された実務を役員が統括 代行する一方、JOMAの専門性を深め、活性化させ るための体制作りとして、専門委員を加えていくこと を今年度の課題としてまいりたいと思います。専門委 員は、これまでの活動実績に基づき

- (1)啓発•訓練担当
- (2)教育・メンバーケアー担当
- (3)地域文化研究担当

の三委員を新設し、役員会と協働して活動していくものです。これによりJOMAが戦略的に情報共有、活用を進めていくことが期待されるものと思われますし、また専門委員が、対外的な窓口となることにより、世界の諸団体とのJOMA窓口を通じた活発な交流も可能になることと思われます。

また(3)地域文化研究につきましては、宣教において特別な配慮を要する環境における働きを念頭にしたもので、最も多くの祈りと支援を必要とする働きとして、常に私たちの心の内にとどめられるべき新たな枠組みを作って行きたいところです。

以上、これらの活動がより効率的、効果的になされるよう、ネットワーク時代の情報共有システムの充実にも努めてまいりたいと考えます。

(JOMA会長 福井誠)

世界宣教9 アルゼンチン

『炎拡大の宣教地』

アンテオケ宣教会 在原 繁

1988年1月に私たち家族がアルゼンチン宣教に着任して以来、23年の歳月が流れる中、アルゼンチンは勿論のこと、南米諸国全体に及ぶ霊的変革によるリバイバルが、終わりの時代の魂の大収穫と福音派教会の急成長を伴い、燃える炎となって全土を席巻するのを見聞してきました。

終わりの日に、私の霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。その日、わたしのしもべにも、はしためにも、わたしの霊を注ぐ。(使徒2:17-18)

この預言のみことばが、今日の南米全体に成就していることを、私は確信しています。



●信徒方との交わりの時

何世紀にもわたり、南米諸国の中枢にあったカトリック教会が、厳格な組織体と独自の聖書解釈の下に民を掌握してきた中、約30年前から始まった福音派(プロテスタント全体の意)の急成長は、社会学的には、すでに形骸化、腐敗が目立ってきていたカトリック教会に愛想が尽きた人々が、それまで少数派だった福音派に一挙に流れたと理解されています。他にも、南米土着宗教による精神的、人種的要因に答えを見出そうとする試みもありましょうが、霊的な目で本質を見るならば、福音派教会の爆発的成長要因はそこに限定されるものではなく、最大要因はズバリ、聖霊の傾注にあると断言できます。

大衆伝道による集団的な回心、そこから始まった 弟子化訓練、更に、祝福の源とされるリーダー養成 を目的としたエンクエントロ指導、セル方式による信 徒の増殖と教会成長等は、時代にかない祝福され た働きでした。

しかし、これらによる成果は、伝道学や教会成長学という知性、理性、理解力だけによるものではありません。



●同労者アラジノ夫妻と共に

知的な分野は重要ですが、働きの始まりとその原動力は御霊の働きによるもので、リバイバルによる成長は、使徒行伝2章にある聖霊のバプテスマという力の賜物によらなくては、実現できないものだったのです。現在は細胞増殖という形式を採用しながら、強風に煽られた野火のような力を内に有した聖徒により、全能の主の力は全土に及んでいます。

また、神の全能の力の働きのよって私たち信じる者に 働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるか を、あなたがたが知ることができますように。 (エペソ1:19)

聖霊が人と教会に注がれること以外に、停滞、マンネリ化からの脱却はないことの証、それが南米のキリスト教史です。御霊に満たされ、霊眼が開かれていること。自戒を込めて申しますと、これこそ宣教地で祝福となれる必要条件です。



における教会建設現場新しい開拓伝道地グアッタンブー

ペルー

日秘福音教会 川崎淳・亮子宣教師

ペルーはスペインの植民地となって以来、ほぼ 100%がカトリック信者ということになっていました。しかし近年はプロテスタントが増えています。最近の国勢調査によると、カトリックは81%にまで下がり、一方プロテスタントは13%となっています。 つまり、ペルーには、プロテスタントだけで260万人以上いるのです。

ある時、ペルー人に「日本のクリスチャンたちが、ペルーの伝道のために祈っていますよ」と言うと驚かれたことがありました。ペルーから見れば、日本のほうがクリスチャン人口も少ない「未伝地域」なのに、そんな彼らがペルーのために祈ってくれているの



●ペルーといえばマチュ・ピチュ

を終え、現地スタッフへの引継ぎ段階に入っています。では、ペルーにはもう宣教師を派遣する必要はないのかというと、そうではありません。まだまだ宣教師が必要とされている分野があります。たとえば、ジャングルや田舎の未伝地域への伝道、貧困地区での開発援助、リーダートレーニング、神学教育などの働き、移民系の人たちへの伝道といった分野では、多くの宣教師が活躍しています。

私が奉仕している日秘福音教会は、日系ペルー人を主な伝道対象としています。100年以上前に日本から移民した方々の子孫です。彼らは国籍こそペルー人ですが、特に高齢の方々の場合、ペルー人とはかなり違った文化の中で生活しています。そのような方々に、普通のペルーの教会が適切に届くことは本当に難しいのです。そのように、ペルーの教会ではなかなか手が届かない分野が、まだまだ残されています。これからも、宣教師との良いパートナーシップが必要だと思われます。



●地震の後、日系のクリスチャンたちが、日本のため に祈っています、ということで「祈り」という言葉を書 きました

私の同労者である現地牧師のダニエル先生に、 今ペルーのためにどのようなことを祈ったらいいかと いうことを聞きましたら、まず、ペルーの治安のため に祈って欲しいということでした。ペルーではかつて のようなテロ活動はおさまっていますが、窃盗、強盗、 誘拐などの犯罪は一向に減りません。私たちが住ん でいる近くでも、銃で撃たれ、お金をとられる、という 事件も起きています。

もう一つ、ペルーの教会の中に、「繁栄の福音」が ひろまっているということです。罪や悔い改めが語ら れず、「信じれば繁栄する」という福音です。ペルー の教会がみことばによってまっすぐに成長するように、 ぜひお祈りください。



| 貧困地区の子供たち

●アルゼンチン共和国

面積:約278万平方キロ。ラテンアメリカ第2位の面積で、 1連邦区と23の州からなる。1万6千3百平方キロの マルビナス諸島(フォークランド諸島)は、アルゼン チンが領有権を主張しているが、現在まで英国の統 治下にある。

人口		増加率	人口密度
2010	4,066万人	+0.98%	15/km²
2020	4,430万人	+0.81%	16/km²
2030	4,725万人	+0.59%	17/km²

首都: ブエノスアイレス

都市居住者: 92.4% 15歳未満:25%

平均寿命:75.2歳

民族構成:ヒスパニック 79.1%(白人72.1%、非白人との混

血4.4%、ウルグアイ人1.8%) ヨーロッパ系 9.8% (イタリア系4.7%、ガリシア系1.7%、スペイン系1.3%) アメリカ先住民 7.1%(グワラニ人2.5%、ケチュア人3.6%) 中東系 3.3%(レバノン人、シリア人、パレスチナ系アラブ人2.7%、ユダヤ人0.5%) アジア系 0.7%(中国系、ロマニ、その他)他のラテンアメリカ諸国からの不法滞在者は百万人に上るとみられている。

識字率: 97.2% 公用語:スペイン語 ■

言語数: 40 固有言語数: 25

現地語聖書: 両約8、新約7、分冊7、翻訳中3

経済: 豊富な天然資源と教育レベルの高い労働力を有する。 牛肉、大豆、小麦、とうもろこし等の農産物が経済の主軸。 2001年より経済力が回復するも、貧困と失業は十分改善されていない。 成長とインフレは高い。

人間性開発指数順位:182国中49位

(2009年国連人間開発報告書)

公債:対GDP 48.6%

一人当たり年間平均収入: \$8,171(米国の17%)

宗教	人口比(%)	信者数(万人)	増加率(%)
キリスト教	89.26	3,630.6	+0.7
無宗教	8.68	352.9	+4.5
イスラム教	0.75	30.4	+3.0
その他	0.55	22.3	+2.1
ユダヤ教	0.5 1	20.7	-0.5
アミニズム	0.12	4.8	-2.1
仏教	0.07	2.8	+4.1
バハイ教	0.03	1.2	+1.0
ヒンズー教	0.01	0.4	+1.0

キリスト教	教派数	女人口比(%)	信者数(万人)	増加率(%)
プロテスタント	100	6.32	257.1	+2.1
独立/単立	75	5.52	224.4	+2.8
聖公会	1	0.05	2.2	+1.5
カトリック	1	86.98	3,537.0	+0.5
正教	9	0.43	17.4	+0.9
非主流	7	1.87	76.1	+2.7

	人口比(%)	信者数(万人)	増加率(%)
福音派	9.1	371.0	+2.1
刷新派			
カリスマ派	17.4	706.3	+3.3
ペンテコステ派	7.1	289.2	+2.4

アルゼンチン出身の宣教師:58団体、プロテスタント+単立 +聖公会494人(内、長期350人)、欧州:158人、国内:50人、 南米の他地域: 65人、アフリカ:52人

●ペルー共和国

面積:約128.5万平方キロ。都市と産業が集中する西部 の乾燥した沿岸平野部、農業地帯のアンデス高 地、東部のアマゾン川流域のジャングルの3地帯。

人口		増加率	人口密度
2010	2,949万人	+1.17%	23/km²
2020	3,288万人	+1.06%	26/km²
2030	3,600万人	+0.84%	28/km²

首都:リマ

都市居住者: 72% 15歳未満:30%

平均寿命:73歳

民族構成:アメリカ先住民50.4%(高原住民49.4%:ケチュ

ア人46.8%、クスコ人7.3%、アイマラ人4.3%等、 低地住民:1.0%)ラテン・ヒスパニック系46.3% (非白人との混血32%、白人系13.5%、アフリカ 系0.7%)その他3.3%(中国系2.9%、日系0.3%)

識字率: 87.9% **公用語**:スペイン語、ケチュア語

(全人口の16.5%がケチュア語話者)

言語数: 93

現地語聖書: 両約 5、新約44、分冊56、翻訳中23

経済:漁業と採鉱、また増加中の農業(特にコーヒー)と 観光を主軸とし、2000年以来力強く成長中。アマ ゾン河流域でのコカイン製造や油田の乱開発は、 深刻な問題。人口の50%以上が貧困、内20%近 くが極貧。

人間性開発指数順位: 182国中78位

(2009年国連人間開発報告書)

公債: 対GDP 24%

一人当たり年間平均収入: \$4,448(米国の9%)

宗教	人口比(%)	信者数(万人)	増加率(%)
キリスト教	95.45	2,815.4	+1.2
無宗教	2.78	82.0	+0.7
民族宗教	1.35	39.8	+2.4
仏教	0.20	5. 9	+1.2
中国系宗教	0.10	2.9	+1.2
バハイ教	0.10	2.9	+1.2
ユダヤ教	0.02	0.59	+16.2

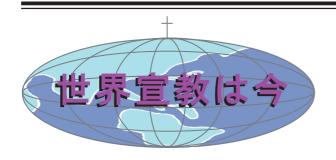
※ペルー人の25%は、アニミズムや魔術の影響を受けた、 異教との混合キリスト教と推定される。

キリスト教	教派数	人口比(%)	信者数(万人)	増加率(%)
プロテスタント	61	8.26	243.7	+2.9
独立/単立	98	5. 81	171.4	+4.7
聖公会	1	0.01	0.2	-1.1
カトリック	1	81.71	2,410.0	+0.5
非主流	4	3.98	117.5	+2.9

	人口比(%)	信者数(万人)	増加率(%)
福音派	11.6	342.7	+4.2
刷新派			
カリスマ派	9.1	268.0	+4.5
ペンテコステ派	4.8	142.2	+4.1

ペルー出身の宣教師:20団体、プロテスタント+単立+聖公会 523人(内、長期318人)、国内:360人、南米の他地域:49人、 欧州:29人、アジア:15人

※Operation World 2010年度版より抜粋翻訳



宣教の主なる神は、ご自身をどのように人々に現し、 そのためにどのようなリソースを用いておられるのか。 地球上のどこで、どういう人々がどのように応答して救 われ、礼拝者となり、どのようにそれが広がっているの か。その中で、日本の教会から宣教に仕える者たちに は、どんな役割が与えられているのか。世界宣教に関 わる私たちの頭に一度ならず浮かぶ問いであり、一生 模索し続けるべきテーマかもしれません。その模索の 中で、次の2点に「今」を見ます。

God's Disturbing Mission(disturbingは「混 乱させている、邪魔している、不穏な」等の意。)

これは、昨年11月6日から11日までドイツ南部で行われた、世界福音同盟宣教委員会の国際協議会のテーマです。世界が常に変化し続け、「北側先進国」による一方通行の宣教の時代は終わり、「南側新興国」からの宣教の推進力が増す中、新たな担い手たちが宣教する「世界」の特徴は、宗教間の対立、不安定で混迷を深める政治、経済力の不均衡、教界内の競争、様々な文脈での多元主義だと言います。そして、長きに渡り人が組織化してきた伝統的宣教方法を、神ご自身が混乱させていると認識し、

- 1)多様な視点と方策の検討、
- 2) 宣教は神のものであり、人間のものではないことの再確認、
- 3)受け継がれてきた宣教のビジョンや、「北側」 発の伝統的アプローチとは異なる、神の今の みわざを知る、

の3点を危急の課題として共有し、取り組もうとの呼びかけです。

2. 「移動する人々」(POM: people on the move) による異文化盲教の機会拡大

この数年、毎年JEA宣教委員会の宣教フォーラム で、「ディアスポラ宣教協力」が、分科会の1つに取り上 げられてきました。当初の主眼であった、海外で信仰 に導かれた「帰国者」の課題、在外邦人宣教と国内教 会との協力の課題に加え、日本在留外国人への宣教 や在留外国人教会との国内宣教協力、さらには東日 本大震災と原発事故により発生した国内避難民(IDP: internally displaced people)の存在まで、回を重ね るに従って、「移動する人々」という視点で見る宣教の スコープの広さと多様さを教えられてきました。旅行、 留学、出稼ぎ、企業派遣、国際結婚、戦争や災害か らの避難など、人間側での移動の理由が何であれ、 これが主の主権の下に起きている動きであり、目の前 に提示された異文化宣教の現場と捕らえる時、宣教を 国内と国外に分ける考え方や、異文化に全く関わらな いことを前提とした宣教理解は通用しなくなり、世界の 宣教関係者の間では、この現実を見つめての、新た な神学的、宣教学的、教会論的な考察も盛んに行わ れています。

ローザンヌ運動の中のディアスポラ・リーダーシップ・ チーム(LDLT)が、このテーマでの協議を重ねてまと

め上げた、"Scattered to Gather" という小冊子の邦訳版が、「収穫のために散らされた人々」のタイトルで、この3月に発行されました。日本でもこのテーマの理解を深め、教会のアクションにつながる一助となるでしょう。



さて、最初に「地球上のどこで…」と書きましたが、今 や宇宙滞在中に主に出会う可能性や、礼拝をささげる ことも十分ありえる時代です。世界宣教を命題とする者 として、宣教の歴史や体験から学びつつも、経験への 過信とそこから生まれる固定観念、先入観、勝手な思 い込み等から、開放していただき、常に宣教の主に聞 き続けてゆきたく思います。

(JOMA役員 アンテオケ宣教会 松崎ひかり)

祈祷課題





<アンテオケ宣教会>

- *6月16日(土)に仙台で開催予定の一日アンテオケ世界宣教セミナー「寄り添う宣教:被災地で、世界の宣教地で」のため。
- *2013年度からのリーダーシップ交代の準備が導かれるように。
- *17カ国、21組、33名の派遣宣教師の生活、活動を事務局がしっかりケアすることができるように。
- *設立35周年記念事業として、キリスト者、また教会が世界宣教に関わるために必要な文書発行を予定していますので、それが実現できるように。

<チャーチ・オブ・ゴッド国外宣教部>

- *宣教師を派遣しているメキシコの治安が悪化しています。グアダラハラ教会も度々泥棒に入られました。現在セキュリティー強化のための工事を申請中です。教会に生活する宣教師とスタッフが守られるように。早く工事に取りかかることが出来るように。
- *麻薬戦争にペソ安と暗い話題に満ちたメキシコの 地で次代のリーダーを育てるチャーチスクールの働 きが実を結ぶように。
- *米国シアトルに於ける日系人伝道の進展のために。

く東京フリー・メソジスト教団宣教委員会>

- *私たちの団体から派遣している野尻宣教師夫婦が今年の5月11日~7月18日まで宣教報告のために帰国します。その間、教団9教会を訪問する野尻師夫妻の奉仕のために。またその報告を聞いて、宣教の働きに関心を持つ人たちがさらに増えるように。
- *野尻師夫妻は、あと3年で私たちの教団の定年(70歳)となります。海外宣教のために立ちあがる後継者が、みこころならば起こされるように。

<OMF日本委員会>

- *主が続いて経済的な必要を満たしてくださいますように。
- *宣教師の1人1人が主をおそれて主を第一とした生活をすることができますように。
- *1人の女性が宣教師候補者として受け入れられました。 すべてが整えられてふさわしい時に宣教地に出発することができますように。
- *1人の姉妹が帰国中です。教会訪問が4月から始まります。各支援教会の皆さんとよい交わりが与えられ、第2期の働きへのよい備えとなりますように。
- *病気療養中であった西村信恵師が2012年4月より OMF日本委員会・主事として福岡市をベースに働き を開始する予定です。体調の回復と仕事に慣れて いくことができるように。

<日本ウィクリフ聖書翻訳協会>

- *感謝なことに今年も昨年に引き続き、2組の日本ウィクリフの宣教師により新約聖書の翻訳が完成し、聖書の献書式が持たれます。パプアニューギニアのマイワ語の献書式(4月)と東南アジアのアルネ語の献書式(6月)です。準備と式の祝福のためにお祈りください。
- *今年も異文化宣教セミナーが西日本(7月)と東日本(9月)で開かれます。多くの受講生が与えられるようにお祈りください。
- *昨年は「ウィクリフ祈りの輪」の集会が新しく長野と埼玉(日本ウィクリフ事務所)で始まりました。今年3月に大阪でも始まりました。さらに「ウィクリフ祈りの輪」の集会が広がるようにお祈り下さい。

く 日本バプテスト教会連合世界宣教部>

連合では、タイ・チェンマイにスポーツを通して宣教 を進めるAISの働きに協力して福間庸平宣教師を 派遣しています。また今年度は、新たな宣教領域へ のチャレンジとして、いくつかの候補地を検討。世界 宣教の推進に努めます。覚えてお祈りいただければ 幸いです。

<日本イエス・キリスト教団>

- *東アジア・中央アジアの3宣教師・ワーカーの働きが 祝されますように
- *シンガポールで研修休暇中の宣教師の新たな導きのために
- *祈りと経済的な支援が強化されていくように
- *友好関係にある台湾基督長老教会、大韓イエス教 長老教会との交流によって宣教の働きが強められる ように
- *教団内の海外宣教史編纂、過去への感謝と将来への希望を持つ

<LMI世界宣教会>

- *3人の宣教師と支援会、理事会を覚えお祈りください!
- *北米宣教(グリニッチ福音キリスト教会)の立石尚志&聖美宣教師、及び支援会の働き。
- *バングラデシュ医療宣教の近藤恵宣教師(現在、 第二期派遣に備えて帰国中)、及び支援会の働き。
- *休職療養中の漆原淑子宣教師(北アジア・モンゴル宣教)の健康の回復、及び支援会働き。





<南米宣教会>

- *佐藤浩之宣教師がオザスコ教会主任牧師としての働きと責任を果たせるように。
- *三浦春寿宣教師がジョセフィーナ学校の理事長 としての責任、マナウス福音教会の日系人伝道が 祝されますように。
- *塚田献宣教師が日本に帰国しました。各教会へ の宣教報告が導かれるように。

く東洋ろうあキリスト伝道教会>

ハル・安森・クラリト宣教奉仕者(フィリピン在住) の上に知恵と霊肉共に健康が守られますように。

<インマヌエル世界宣教局>

- *国外の宣教活動が主のみこころにかなって力強く 前進できますように。
- *国内教会の働きが祝され、宣教の推進のために祈りとサポート(月々の宣教献金)が増加しますように。
- *巡回報告のために帰国予定の三森邦夫宣教師 夫妻、鹿島義喜宣教師夫妻、平瀬義樹宣教夫妻 の報告が祝され、世界宣教の重荷が増しくわえられ ますように。
- * 今年ザンビアに派遣された根廻恵子医療宣教師 の適応と奉仕を続けている富沢香宣教師の健康と 奉仕のために。
- *宣教地で奉仕を継続している蔦田就子宣教師、豊田常喜宣教師夫妻、蔦田康毅宣教師夫妻と家族の健康が守られ、奉仕が祝福されますように。
- *昨年試練の中を通過したカンボジアのウェスレアン教会と蔦田緑乃宣教師の健康と今後の導きのために。
- *協力関係にあるインドのSIBS、ミヤンマーのウェスレアン教会の働きの前進のために。

<0M日本>

- *宣教師の霊性健康が支えられ、神様の栄光を現す働きができるように。宣教地における国際的なチームの一員として多様性を尊び、理解し、また語学力や知恵が与えられるように。
- *宣教師の帰国後の歩みのため。長期間の異文化での生活と働きを終えた宣教師が、スムーズに日本での生活に順応し、宣教地での経験や訓練を日本の教会で十分に用いられるように。
- *多くの日本人が福音を携えて教会から世界宣教へと送り出されるために。

<在欧日本人宣教会>

本宣教会派遣宣教師のミュンヘン日本語キリスト教会の安藤廣之牧師が、2012年8月24日から10月9日まで日本に一時帰国し宣教報告のため巡回します。

九州から徐々に関東に向かって上る予定です。 このデピュテーションが支えられ祝されますようお祈り下さい。安藤廣之宣教師にこの機会にコンタクトを取りたいと導かれる方は、本人のメール (gihigugmakoangdios@yahoo.co.jp)へ、又は在欧事務局へお問合せ下さい。

<日本アッセンブリーズ·オブ·ゴッド教団>

2年前より米国に邦人伝道のため宣教師が派遣され、米国アッセンブリー教団と連携を取りながら働きが進められています。台湾では、台北に出てきている原住民に対する伝道で、現地での献身者も起こされ、多くの人々が集い、働きが拡大しています。フィリピンでは神学校における教育と共に、現地の伝道者を励ましながら多くの教会を助けています。4月より1組の宣教師訓練生が宣教師となるための準備に入る予定です。

<日本ホーリネス教団>

現在、ホーリネス教団では、5組の宣教師(海外奉仕者、在日外国人伝道者を含む)を派遣中。

- ①フィリピン・ミンダナオ島で現地人対象の開拓教会 形成(エノプレ宣教師夫妻)
- ②ブラジルのクリチーバ教会の日本語部牧師の働き (新谷宣教師夫妻)
- ③在日中華系外国人のための働き (宣教団体を通じて、木下宣教師) その他に2組の働き。
- ――どうか、それぞれの安全と健康が守られ、その 働きが豊かな実を結ぶようにお祈りください。

<基督兄弟団>

2016年に教団70周年にあたり、「キリストの証人となる」宣教計画として、2012年度は「きよめ」をテーマに各教会形成に取り組む。

くミラノ宣教支援会>

- 1. 在伊・在欧邦人の救いのために(新しい求道者との出会いが与えられ個人的な学びに導かれるように)
- 2. 在伊・在欧邦人クリスチャンの霊的成長のために (ミラノ日本語集会が主の教会として建て上げられ ていくように)
- 3. 帰国者が日本でも教会に繋がるために
- 4. 牧師夫妻の霊性と健康が守られ、経済的な必要が満たされるように
- 5.2年おきに更新が必要な宣教師ビザが常に与えられますように(次回更新は2013年の10月5日です)

◆JOMA総会の案内

・日時:2012年4月24日(火) 午前13:30~午後15:30まで

・会場:お茶の水クリスチャンセンター415号室

総会プログラム

議案1:2011年度事業報告 議案2:2011年度決算報告 議案3:2012年度役員改選 議案4:2012年度事業計画 議案5:2012年度予算案承認

・総会資料:総会開始日1週間前に次のアドレスからダウンロードできます。

http://joma.hope8.net/

なお、ID、パスワードが不明の場合は、お問い合わせいただけますようによろしくお願いいたします。

•(連絡先:JOMA事務局:jomaoffice@yahoo.co.jp)

お願い:会費は、総会前日までに必ず次の郵便 振替まで振り込みをお願いいたします。 現金での受け取りはできません。

郵便振替(口座名義: 海外宣教連絡協力会/

口座番号:00160-7-106631)

◆JOMA 世界宣教セミナーの案内

総会の日時に合わせて世界宣教セミナー加盟団体昼食会を持ちます。こちらも併せて参集くださるようにお願いいたします。

11:00-12:00 世界宣教'セミナー

『要配慮環境における働きと働き人の支援』 浜田文夫、中澤重光両氏により、宣教において特別な配慮を要する環境での働きについての具体的なレポートの後、諸課題についての質疑を行います。 12:30.13:30 昼食をとりながら加盟団体紹介

【退任のお知らせ】

今年度を持ちまして、長きにわたりJOMA事務局を務めてくださった坂庭祐子さんが、2012年3月末日をもって退任されることになりました。これまでの多くのご労に心から感謝申し上げます。また、JOMA事務局機能は、今後、神田千代田区神田駿河台2-10CCビル内6F、宛に移転を完了することになります。これまで事務局を引き受けてくださったJECA本郷台キリスト教会のお働きとご協力に、心から感謝申し上げます。JOMAへの連絡は引き続き jomaoffice@yahoo.co.jp をご利用くださいますようによろしくお願い申し上げます。

◆JOMA加盟団体リスト (2012, 3月現在)

LMI世界宣教会

OMFインターナショナル日本委員会

OM日本

アンテオケ宣教会

イムマヌエル綜合伝道団 国外宣教局

チャーチ・オブ・ゴッド国外官教部

基督兄弟団海外宣教委員会

在欧日本人宣教会

東京フリーメソジスト教団宣教委員会

南米宣教会

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団海外伝道部

日本イエス・キリスト教団

日本ウィクリフ聖書翻訳協会

日本バプテスト教会連合

日本ホーリネス教団

東洋ローア・キリスト伝道教会海外宣教委員会 ミラノ宣教支援会

●加盟団体募集中●

協力会員・団体会員を募集します。

会費年額 団体会員 60,000円 協力会員 12,000円

詳しいお手続きについてはお問い合わせ下さい。

JOMA海外宣教連絡協力会

発行者:福井誠

住所:〒101-0062 東京都千代田区神田 駿河台2-1 OCCビル内6F、JOMA

メール: jomaoffice@yahoo.co.jp (電話はありません)

ホームページ: http://joma.hope8.net/

郵便振替(口座名義: 海外宣教連絡協力会/

口座番号:00160-7-106631)